

### 第3回塩竈市総合教育会議 概要報告

1. 日時 令和3年10月27日(水)  
開会 14時30分 閉会 16時05分
2. 会場 塩竈市魚市場中央棟大会議室
3. 出席者
- |                  |        |
|------------------|--------|
| 塩竈市長             | 佐藤 光樹  |
| 塩竈市教育委員会         |        |
| 教育長              | 吉木 修   |
| 教育長職務代理者         | 高橋 輝兆  |
| 委員               | 松田 攝子  |
| 委員               | 佐藤 香   |
| 委員               | 菅井 信吉  |
| 学識経験者            |        |
| 宮城教育大学教授         | 梨本 雄太郎 |
| 宮城教育大学准教授        | 金田 裕子  |
| 学校関係者            |        |
| 塩竈市立第三小学校教頭      | 鎌田 実   |
| 塩竈市地域学校協働本部会長    | 佐々木 信行 |
| 塩竈市立月見ヶ丘小学校PTA会長 | 佐藤 英   |
- (事務局)
- |                   |        |
|-------------------|--------|
| 市民総務部長            | 荒井 敏明  |
| 市民総務部理事政策調整監兼政策課長 | 佐藤 俊幸  |
| 市民総務部政策課課長補佐兼企画係長 | 菊池 亮   |
| 教育部長              | 鈴木 康則  |
| 教育部理事兼市民交流センター館長  | 佐藤 達也  |
| 教育部参事兼学校教育課長      | 白鳥 武   |
| 教育部教育総務課長         | 佐藤 聡志  |
| 教育部生涯学習課長         | 鈴木 和賀子 |
| 教育部教育総務課課長補佐兼総務係長 | 鈴木 亮平  |
| 教育部教育総務課総務係主査     | 蜂谷 愛   |
4. 欠席者
- |             |       |
|-------------|-------|
| 学校関係者       |       |
| 塩竈市立第三中学校校長 | 猪股 智秋 |

5. 議 事 塩竈市教育大綱、塩竈市教育振興基本計画の策定について
- (1) 教育の現状と課題 (第2章)
  - (2) 施策体系 (第5章)
  - (3) その他 (本計画全般に関わること)

6. その他 今後のスケジュールについて

7. 概要

- 開会
- 佐藤市長あいさつ
- 議事

**塩竈市教育大綱、塩竈市教育振興基本計画の策定について**

事務局から「第2章教育の現状と課題」、「第5章施策体系」について説明した後、内容について確認を行い、その後意見交換を行った。

**【主な意見】**

〈金田准教授〉 成果指標について、目標値はどのように決めているのか。基準値より低い目標が設定されているものもあれば、高く設定されているものもある。どのように設定したのか教えていただきたい。

〈白鳥学校教育課長〉 おっしゃる通り目標値が基準値より下がっている部分もある。例えば、資料20ページの成果指標、学校生活満足度群の児童生徒数の割合においては、小学生の目標値が65%と基準値の67%より下回っている。これは、小・中学生とも65%を超えることを一つの目標にしたいと考え設定したものである。また、22ページの幼保小連携の成果指標について、目標値は基準値のちょうど半分に設定させていただいた。これは現在の基準値より少なくても良いという判断ではなく、少なくとも現在の半分の回数を超えたいと思い設定したものである。現在より、より多い回数となると回数だけ拍車がかかり、大変になってしまうと考えた。そのため、絶対に達成したいという目標値を設定させていただいた。同じく22ページの成果指標、特別支援教育支援員の配置状況について、基準値と目標値が同じとなっている。これは、必ず確保したい、最低でも現状を維持したいと考えこの目標値を設定した。

〈松田委員〉 成果指標についてお伺いしたい。19ページに記載のある成果指標の測定の対象について、小学生、中学生とあるが、これは全学年を対象に毎年調査を行うものなのかお伺いしたい。また、29ページ、31ページに記載のある成果指標の測定の対象の満足度について、年何回アンケートを行う等どのような形で測定を行うか、具体的な方法をお伺いしたい。

〈白鳥学校教育課長〉 19ページの測定の対象について、対象は小学3年生から中学3年生までである。

〈鈴木生涯学習課長〉 29ページ、31ページの満足度について、現在、満足度調査を行っている施設、行っていない施設、また、満足度のアンケートの取り方、項目等がばらばらな状況である。生涯学習プランも並行して策定しているため、その中で内容について精査し、同じレベルで満足度調査を行えるようにしたいと考えている。

〈高橋委員〉 7ページの「授業が分かる」と答えた児童生徒の割合について、小学校では国語・算数が比較的分かると回答しているが、中学校になると数学が分かると回答した生徒の割合が軒並み低下してきている。現状、この状況についてどのような分析を行っているか。

〈白鳥学校教育課長〉 これは、積み上げの教科であるということが、大きな原因であると考えている。分からないところに、次々と新しいことを習っていくということである。これは中学校で突然起こっていることではなく、このグラフを学年ごとに細分化すると、低学年が高く、高学年になるにつれ低くなっていくという状況である。このような状況にならないよう、補助的な学習、基礎・基本に特化したドリル学習等に力を入れていく。

〈佐藤会長〉 19ページの成果指標に国語・算数（数学）の「授業が分かる」と答えた児童生徒とあるが、これは子どもたちの理解度として受け止めていいのか、それとも単純に分かると回答したということなのか。例えば、分かったつもりでいて、理解できておらず、成績が伴っていないということもある。この成果指標はどのように受け止めたらいいのか。

〈白鳥学校教育課長〉 この指標は、子ども自身がどのように感じているかという指標である。ストレートな言葉で言うと、「分かる」と「できる」があり、この「できる」というのが、佐藤会長がおっしゃった、本当に理解しているのかという意味も含んだ言葉になると思う。この成果指標で聞き取っているのは、「分かる」ということである。まず自分で分かるか、友達、教師が言ったことが分かるか、文章題が分かるかというところで測っていきたい。

〈高橋委員〉 成果指標について、これから10年間の目標値となるが、せっかく目標を立てるなら高い目標値を設定したほうがいいのではないか。高い目標値にしないと、例えば来年度この目標値を達成した場合、教える側のモチベーションがそのままになってしまうのではないか。もう少し高く設定してはいかがか。

〈松田委員〉 19ページの成果指標の授業で週に1回以上コンピュータなどのICT機器を活用した割合について、基準値25%から目標値50%と倍に伸びている。これは、これからICTを活用する機会が増えることで50%を超えるのではないかと予想し設定したものかと思う。このようにICTを活用したことに伴い、「授業が分かる」と答えた児童生徒の割合も増えるのではないかといことを見越して、高橋委員同様、10年後の目標のため、少し高い目標値でもいいのではないかと考える。

〈白鳥学校教育課長〉 委員の皆様のおっしゃるとおり、目標値を高く持つことも大事な  
ことと感じている。しかし一方で、対象となる子ども達が毎年変わっていくというこ  
とを想定している。先ほど測定の対象を小学3年生から中学3年生までとお伝えした  
ので、6年間は同じ子どもを対象としていると取れるが、世代は変わっていくため、  
基準値より1%アップを達成するだけでも難しいと考えていた。また、来年度この目  
標値を達成したとしても、再来年度も達成できるというのは難しいと考え、このよ  
うな目標値にしている。委員の皆様のご意見を受け、一度部内で検討したい。

〈松田委員〉 白鳥課長のおっしゃる通りに思う。しかし、目標値というのはある程度高  
いものを持つものである。目標値を達成できなかったからダメだったということでは  
なく、初めは目標値を高く掲げておき、5年後に見直すという方法もあるし、そこで  
目標を達成できないのはなぜなのか再度検討し、目標値を変えていくこともできると  
思う。本計画に、子どもたちの夢に向かって頑張る力や前向きにという記載があると  
おり、私達も前向きに考えて、目標値を設定してはいいのではないかと考える。

〈金田准教授〉 10年後ということで、学習指導要領もこの10年改革したもので行わ  
れるが、主体的・対話的で深い学びということが大きな目玉として掲げられていると  
いうことを考えると、学習指導要領の方針からいっても、話合う活動を通じて、自分  
の考えを深めたり広めたりすることができていると思うような児童生徒の割合が増  
えていく。そういったことから、もう少し目標を高くもったほうがいいのではないかと  
考えた。

〈佐藤市長〉 佐藤委員にお伺いしたい。私は幼保小連携に大変興味を持っており、私立  
と公立の差もあるが、同じ子どもを段階的に育てていくという中で、どこまで連携し  
ていけばいいのか考えている。何かアドバイスや、行政に対する要望などご意見があ  
ればお聞きしたい。

〈佐藤委員〉 幼保小連携について、塩竈ではコラソンの職員が一学期に数回、年長児を  
見に来てくださり、一年生にあがった卒園児の様子も伝えてくれる。また、年長児が  
どういった取り組みをしているのかということも伝えていただいたりしている。幼稚園、  
保育所の職員も小学校に伺い、授業参観をするという様な取組を行い、小学校へ  
気持ちも身体もスムーズに向かっていくということが、ここ数年できていると思っ  
ている。先日もコロナ禍ではあるが、年長児が全員小学校へ行き、校庭で思う存分遊び、  
小学校の様子を少し見せていただいた。幼保小連携はこのまま引き続きお願いしてい  
きたいと思っている。

質問だが、20ページ、(2) いじめ・不登校等への対応と心のケアの充実に重なる  
内容かと思うが、ジェンダーレスというか、塩竈市立第二中学校では制服が女子もス  
ラックスに対応しており、また、ジャージ登校を許可しているというお話を伺ってい  
る。そのような取組を積極的に各学校行っているのかお聞きしたい。また、コロナ禍  
により、肥満傾向の子どもが増えているが、20ページ、(3) 健やかな体の育成とい  
うことで肥満傾向の子どもに対し、各学校ではどのような取組、働きかけを行ってい

るかお聞きしたい。

〈白鳥学校教育課長〉 第二中学校の取組は先進的というか、校長先生が采配し、先を見通した取組を行っている。校長会でそのような取組を紹介しているので、他の中学校、あるいは小学校でも何か活用できることは行うというように進めてまいりましたし、今後も進めていく。また、コロナ禍における肥満傾向について、課題だと捉えている。特に小学校では縄跳びを上手に活用できないかということで、県で取り組んでいるWed縄跳び大会のようにソーシャルスキルを保ちながら、どのような運動が運動量確保につながるのか見定めながら様々な取組を啓発していくところである。

〈佐藤市長〉 菅井委員にお伺いしたい。浦戸の特認校として浦戸小中学校は特殊性があると思うが、浦戸小中学校のPTA会長としてご意見があればお伺いしたい。

〈菅井委員〉 12ページの地域社会との連携について、浦戸の場合だとカキむき体験や海苔スキ体験、また船を出していただく等、島の方々の協力がなければ行事ができないという様な状況である。他の学校では地域との協働といった場合、業者なのかご年配の地域の方なのかという様な、具体的にどのような方と今後協働を進めていくのか。

〈白鳥学校教育課長〉 浦戸は長年にわたり地域と密着しており、そのようなスタイルは他の小中学校でもモデルになるものだと感じている。令和3年度からはコミュニティ・スクールを試行ということで、第一小学校、杉の入小学校、第一中学校の3校で導入している。これを見習い、令和4年度からはすべての小中学校でコミュニティ・スクールを始めようと考えている。この取組が始まると、地域学校協働本部と連携しながら、地域コーディネーターが中心となり、様々な人材と繋いでいただく。他にもゲストティーチャーとして、青年会議所のような、私たちは「第三の大人」と呼んでいるが、現場の専門的な知識を持っている方々と連携していく。これが20ページで記載している4. 地域社会との連携である。

〈菅井委員〉 企業もあるため、社会見学もかねて、地域にある、町内会にある商店を訪ねても面白いかと思った。

〈佐藤市長〉 部活動について、気になっている。子どもが減っているため、例えば野球部一つ、サッカー部一つを作るにしても別な学校同士で組んで中体連を行っているという現状もある。そこについて、佐々木会長からご意見やアドバイスがあればお伺いしたい。

〈佐々木会長〉 人口の減少が原因のため、各学校今までの部活動が維持できないというのが現状である。一番危惧しているのが、やりたいのにやれない種目がたくさん出ていることである。現実には、市内ではソフトボールはできない、男子バレーボールも玉中ではできるがその他ではできない、野球部も危ないという学校も多い。団体競技で一チームの人数が多いものは一つの学校では維持できない。ただし、市が頑張り市として一つのチームを作っても中体連、高体連で2校まで、または3校まで合同のチームしか出場できないという規定が変わっていかないと、出場できないという現実もあ

る。教育委員会全体で話しを押し上げていただければ可能なのかなと思う。

〈佐藤市長〉 重要な視点の話かと思う。今後やりたい競技があってもチームがないからできないという子どもたちをどのようにフォローアップしていくかということが大きな課題になっていくと思う。教育委員会として、現段階で考えていること、また中体連の規定についてどのように問題を捉えているかお聞きしたい。

〈吉木教育長〉 すでに検討に入るところであり、各中学校の校長に新人チームの部員数を確認しているところである。佐々木会長がおっしゃったとおり、中体連の合同チームの規定が2校、3校までという縛りがあるため、県の中体連とも確認し進めている。

〈松田委員〉 二つお話ししたい。一つ目は、8ページの体力・運動能力調査について、グラフを見ると、宮城県も同じであるが、小学校の男子も女子も、シャトルラン、50m走、立ち幅跳びのように瞬発力、持久力について非常に落ちている。9ページの中学生は、長座体前屈、柔軟性が落ちている。そのように焦点化した、特化した指導を行っていくという文言等が入るといいのではないか。あるいはそういう意識で各学校対応を進めていただけると、もっと子どもの体力、運動能力が高まるのではないかと思った。二つ目は、第5章施策体系で、主な事業・施策（例）として1）、2）のように記載があるが、その数が六つ記載しているものもあれば、一つしか記載していないものもある。数が多いところは重点化して取り組む部分であると思うが、一つしか記載のない部分が気になった。例えば24ページの③教職員が子どもと向き合う時間を確保するための環境の整備で、1）ICT等を活用した業務効率化の推進とあるが、先生方が実際に空いた時間で子どもたちと向き合うかということとどうかなど考える。向き合う時間を確保するための、教育相談をする、学習相談をするといった施策をもう一つ記載してあるといいのではないか。

〈白鳥学校教育課長〉 一つ目の体力・運動能力の弱点について、その底上げに対する文章を考えていきたい。

〈佐藤教育総務課長〉 二つ目の子どもと向き合う時間の確保について、教育総務課として、快適な教育環境の整備として ICT 機器の整備を想定していたが、ご意見を伺い、学校教育課と相談し、内容を詰めていきたい。

ここで一度10分間の休憩をはさみ、その後、引き続き意見交換を行った。

〈鎌田教頭〉 23ページ（1）安心安全な学校施設の整備、①安全・安心な学校施設の整備、2）安全・安心な施設環境を維持するための管理・修繕の実施とあるが、予算があるため難しいことは承知しているが、学校の老朽化が進んでいる。子どもたちの安心・安全な学習環境、また、職員の快適な勤務環境を確保するために、今後も管理・修繕に努めていただきたい。特に給食室は古い施設で業務を行っており、高齢の調理員さんがケガをしないかと心配を抱えている。大規模な改修が難しいことは承知しているが、心に止めて、これからも修繕を行っていただきたい。

〈佐藤市長〉 給食室について、数か所確認し現状は承知している。施設の老朽化により、一番大切にしなければいけない衛生面で不安がある。また、働き方の労働条件に問題がある。これは何年も前から塩竈市の教育委員会で間違いなく把握していたことである。それと同時に、二市三町で給食センターがないのは塩竈市だけである。それを自校方式だからこうであると、言葉だけ捉えて議論するのは違うのではないかと考えている。そこで現在、すぐに実施することはできないが、給食センターについて検討しているところである。しかし、その場合でも今ある学校の給食数をすべて対応できる給食センターの規模は望んでいない。少子化が進んでいるため、現在の規模で作ったら、今後不要になる規模になりかねない。予算と状況により考えるが、例えば1,000人いる学校であれば、500人の規模で給食センターを作り、残りを比較的新しい施設の学校を残し、自校方式と合わせバランスをとって給食を提供するやり方もあると思う。また、七ヶ浜町では、こちらで人を派遣すれば、200人くらいの給食を作れる余力があるため、そういったやり方も活用できないか。そのような面を検討しながらも、今考えている規模で給食センターを作ると8億から9億円かかる。例えば、民間企業に協力いただき、公設民営できれば半分の投資で済むかもしれない。そうすれば検討の可能性がでてくるかもしれない。そういったことを積極的に考えていきたい。ただその間も、今学んでいる子どもたちのために何ができるかということ疎かにできないため、スチームコンベクションについて徐々に設備を整えさせていただきたい。それと同時に塩竈市の基幹産業は水産業なので、魚食文化として、水産、水産加工業の食べ物を活用し、地元生まれ育ったからこそ恩恵を受けられる子どもを育てなければいけないと思っている。そのため、スチームコンベクションについては早急に導入を進めたい。様々な人から意見を聞いている。問題を問題として先送りにするのではなく、どういう方法だったらできるのか、どういう段階で進めることができるのか、可能性を探りながら、子どもたちのためには後回しにはしない行政を進めさせていただきたい。

〈梨本教授〉 目標値について話が出たが、実現可能性が高い数値を定めるという事務局の考えも理解できるし、会議の中で話が出たように高めの目標をとというのも分かる。目標を達成できないからダメだということではなく、高めの目標に向かってチャレンジするのであれば、目標値を見直してもいいのではないかと感じた。次に、16ページ第3章目指すべき姿について、「ともに学び、ともに楽しみ、ともに輝く、生涯学習を目指します。」と記載があるが、私は生涯学習が専門であるため、この生涯学習という言葉の使い方は難しいと思っており、気になった。学習する側から見て議論しているのか、学習を支援する側から見て議論するのか分かりづらく、例えば、教育基本法第3条の表現を使用し、「生涯学習社会の実現を目指します。」のような表現の仕方があるのではないかと。「生涯学習を」という表現がやや気になった。また、26ページにも「生涯学習を」という記載があり気になったため、お話させていただいた。

〈鈴木部長〉 生涯学習について、どちらを主語にするのかにより表現も変わると思うた

め、今回のご意見を伺い、検討させていただく。また目標値について、22ページの成果指標、巡回指導の回数等について、休憩時間中に確認し、巡回指導の回数の基準値が126回、目標値が120回、保育・授業参観の回数の基準値が63回、目標値が60回の記載誤りであったので、大変申し訳ないが報告させていただく。次に20ページの成果指標、学校生活満足度群の児童生徒数の割合について、小学生基準値67%という令和3年度の結果は特に高いものであった。例年は60%程度のため、目標値を65%と設定させていただいた。目標値について様々な考え方はあるが、もう少し高い目標値でもいい部分が見受けられるため、再度精査させていただきたい。特に19ページのICT機器を活用した割合について、目標値が50%となっている。今年度からiPadを一人一台用意し、来年度からはAIドリルを導入し、それを利用した授業や学習を行ってもらおうと計画している。そのため、この目標値は100%としても達成できるのではないか。そういったことも含め改めて精査させていただく。

〈佐藤市長〉 会議で使う資料のあり方について、反省すべきである。委員の方々はこの資料を基本に、考えたり意見を述べたりしている。徹底して見直しをかけ、間違いないよう、資料を作成してほしい。生涯学習や目標値について、教育長から何かあるか。

〈吉木教育長〉 生涯学習について、梨本教授が専門の先生であるため、ご意見を伺いながら内容を精査して進めていく。もう一点、成果指標について、19ページが確かな学力、20ページが豊かな人間性、21ページがスポーツテストとして示している。20ページの豊かな人間性については感覚的な物なので、この測定方法で良いと思うが、19ページの確かな学力の測定方法については、全国学力状況調査の結果を使用しないのかと思った委員の方もいるかと思う。この測定方法について、今後委員の方々に一緒に考えていただきたい。私の考えでは、全国学力調査は対象が小学6年生と中学3年生と、毎年対象となる集団が変わっていくため、それを毎年比較するのは危険なのではないかと考えている。ただし、標準学力調査については、塩竈市の場合小中ですずっと行っているの、そのデータをこの成果指標に使用してはどうかと考えている。内部で検討し、その後、委員の方々からもご意見をいただければと思う。

〈佐藤市長〉 最近災害が多発している。その時の避難所のあり方について、問題意識を持っている。町内会の役員が高齢化しているのは皆さんご存じかと思うが、手伝いに来て下さる方は皆、同じ顔触ればかりとなっている。避難所のあり方について、今後、中学生の子どもにも活躍いただき、地域の避難所を一緒に守っていただきたいと考えている。多賀城高校に災害科学科とうい、防災に特化した科がある。すでに多賀城高校の校長先生に相談し、今後どのように連携していくか考えているところである。そういった面も今後、ご意見があればご指導いただきたい。



○その他

今後のスケジュールについて

塩竈市教育大綱、第2期塩竈市教育振興基本計画の策定に係る今後のスケジュールについて、報告を行った。

○閉会